

本年度の八戸地域学スタート

産業面で見える優位性解説

八学大
小林学長

八戸

八戸産学官連携推進会議
(会長・熊谷雄一市長)に

よる高等教育機関の共通講
義「八戸地域学」が10月29
日、八戸高専で開かれた。
本年度の初回で、講師を務



産業面から見た八戸市の優位性を
説明する小林眞学長

めた八戸学院大の小林眞学
長が産業面から見た八戸の
優位性を解説した。

市が産業都市として発展
した背景には、1950年
に完成した馬淵川放水路の
存在を挙げた。水害が軽減
された臨海部に工業団地を
形成し、人口増加につなが
ったと説明。東京や横浜な
ど国内の主要港湾と違って
後背地に開発余力が残るた
め「八戸の可能性は高い」
とし、コンテナのハブ港や
エネルギー資源の受け入れ
拠点となる展望を示した。

自身が市長時代に進めた
スポーツによるまちづくり
のヒントは、総務省職員時
代に出向した浦和市(現さ
いたま市)での取り組みが
あったとした。

市には今後、スポーツ施
設をはじめとする県立施設
整備を巡り青森県側とのさ
まざまな協議が待ち受け
る。小林学長は県立施設の
偏在を指摘し「民主主義の
不幸。それでも八戸はめげ
ずに一生懸命頑張ってきた」と強調した。

この日は2年生約150
人が受講した。八戸地域学
は11、12月にも八学大と八
戸工業大で開かれる。

(藤野武)